

北和地区の下水道事業については、迷惑料の話がありますがどのようになつたのか、また房島の処理場の話はどのようなようになつたのかお聞かせください。

また、「市町村設置型の合併浄化槽も併用して進める」と言われましたが、その後どのように進めているのかお聞かせください。

揖斐川町の自然環境を守るために、下水道事業を全部否定する訳ではないのですが、いったん凍結し、事業費、また年間の借金返済、維持管理費の町負担などはつきりした住民説明をし、住民の納得した上で進めるべきと思いますがいかがでしょうか。

## 答 宗宮孝生町長

下水道事業については、当初より各処理区域ごとの下水道推進協議会で「地元において処理場の位置が決まったところから事業に着手する」旨お話をさせていただいており、北和地区においては、処理場の位置が決まったので事業推進の要望が出てきたと承知しております。こうした中、地元推進協議会が平成17年6月11日に開催され、委員長から「処理場の位置の変更が生じた。また、処理場立地箇所への迷惑料はなしになつた。」と町に報告がありました。また、市町村設置型合併浄化槽の設

置につきましては、平成18年度からの実施に向けて、農業集落排水事業の清水地区・北和地区と併せて整備を行う「汚水処理施設整備交付金」にて整備をするべく、事務手続きを行っております。

住民への説明については、事業採択区域においては4月12日の北和地区農業集落排水推進委員会での説明を皮切りに、区全体が市町村設置型の合併処理浄化槽での整備方針になりました西若松、東若松、伊尾野、桂、北方の6区・7区、表山・大和台については、5月27日までに説明をすませております。残りの地域については、各処理区の推進協議会と調整を図りながら説明会を実施していきたくと考えています。

## 市田茂和議員

## 問 我が町の少子化対策及び育児支援策について

現在、揖斐川町では、乳幼児医療費助成として就学前の乳幼児の医療費の無料化を図ってきました。今回、7歳〜12歳、小学校卒業までの医療費を補正計上されました。このことについて町長に考えをお聞きします。

また、昨年の旧揖斐川町議会で同様な質問をしましたが、揖斐総合病院の小児科は、保護者にも安心感を与えています。それだけに患者が多く、昼の小児科待合室付近は多くの患者さんが弁当持参で待つてみえます。こうしたことから、早急にスタッフの充実を揖斐総合病院に申し入れできませんか。町長のお考えと更なる子育て奨励制度、若年者の定住化施策・支援策、また抱負があるならお聞かせください。また、育児支援センター・児童館のPR方法についてもお聞きします。

## 答 宗宮孝生町長

少子高齢化の進行は、子どもの健全な成長への影響のみならず、社会経済や社会保障のあり方にも重大な影響を及ぼすことが懸念されます。こうしたことから、子育て家庭の経済的負担を軽減する措置が少子化対策の重要施策となっており、県内すべての市町村において乳幼児医療費助成制度が実施されていますが、児童期までの年代は、病気に罹りやすく病気の早期発見、早期治療、治療の継続を確保する上で、医療費助成制度は極めて重要な役割を担っています。この制度を充実させて、子どもを安心して産み育てることのできる社会の実現と少子化対策、子育て

を支援し、乳幼児・児童の福祉の増進を図るものと考えております。

また、小児科医療体制については、揖斐厚生病院は小児科専門医が1名常勤で勤務されており、月・金曜日は岐阜大学病院より1名加配され、2名体制で再診、初診に分かれて外来診療にあたられています。病院では、毎年、岐阜大学病院の医局に増員を要請しているとのことですが、小児専門医の数が少ないことも一因となつてなかなか実現していないのが実態であります。全国的にも小児専門医が不足する中、県立岐阜病院と大垣市民病院の救命救急センターにおいて、小児専門医が24時間対応してはいますが、さらに今後、休日・夜間の小児救急医療体制を充実させるため、県では大垣市民病院と県立岐阜病院を「小児救急拠点病院」として今夏にも整備される計画とお聞きしています。当町としましては、揖斐厚生病院に、医療体制の整備、スタッフの充実について粘り強く要望してまいりたいと思っております。

また、更なる子育て奨励制度、若年層の定住化施策等については、今後、新町建設計画に掲げられた重点プロジェクトを推進し、「揖斐川町に住みたい」という魅力づくりに努めたいと考えております。

## 答 知本俊行健康福祉部長